

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月2日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520335

研究課題名（和文） 詩的言語におけるリズムと形象（フィギュール）の相関関係の研究

研究課題名（英文） Research on the Relationship between Rhythme and Figure in the Poetical Language

## 研究代表者

丸川 誠司（MARUKAWA SEIJI）

早稲田大学・教育・総合科学学術院・准教授

研究者番号：70339612

## 研究成果の概要（和文）：

まず、「リズム」という概念をそのギリシャ語源に遡り、いかにそれが（ある特殊な）「形」の概念に結びついているか、及びそれが人間の知覚と想像の条件、その環境形成にどのように関わっているかを、人類学的、美学的、詩学的、及び哲学的視座から考察した論考「リズムと形を巡るノート」を記した。この論考の中で、リズムに大きな関心を示した近代詩人（ヴァレリー、クローデルなど）が言及されているが、詩的言語の具体的なリズム論の問題は詩人二人を巡る論文で個別に扱っている。一人目のM.ドゥギーについては2011年3月の国際シンポジウムで発表を行い、その内容を発展させた論文が今後“Pensée de rythme-figure”という題で論叢に収録されフランスで出版される予定であり、次のP. クローデルについては“Cent phrases pour l'éventail, encore (rythme et figure)”という論文を海外の専門誌に投稿し、現在審査結果を待機中である。

ついで、造形芸術における「リズム」の概念については、前述の論文の続編となる「リズムと形を巡るノート（2）」で、主にパウル・クレーの「リズム」の構想を巡り、同時代のドロネ等の画家のリズムの懸念等と比較しながら、空間において持ちうるリズムの表現の問題を検討した。これらの論文を通じ、漠然と音楽ならびに時間的要素に結びつけられるいわゆる「リズム」の概念が、いかに空間的なイメージを伴っているか、そしていかに機械的な定期性と異なる儂い「均衡」の形態として詩的言語及び造形の世界で構想されてきたかを、いくつかの具体例の検証とともに明らかにしたと言える。概論的な論文1つ、及び詩的言語に関する論文2つ（現時点で未刊行）、美術にかかわるもの1つが準備できたので、今後は可能なら音楽関係のものも準備してみたいと考えている。

## 研究成果の概要（英文）：

The first article of Seiji Marukawa resulting from this research project, entitled “The Note on Rhythm and Figure”, examines the fundamental relationship between the Greek word “rhythmos” and the notions of Form or Figure at their origin, tries further to take into account the influence this connection

could have on the conditioning of human perception and imagination, on the formation of his environment, from the anthropological, aesthetical, poetical and philosophical point of view. The second article, “The Note on Rhythm and Figure (s)” took the concrete example from the Aesthetic domain, namely the Swiss painter Paul Klee and his conception of Rhythm rendered in some of his work, discusses the spatial notion of Rhythm, in the historical context and in comparison with the similar conception of his contemporary artists (such as Robert Delaunay). Concerning the poetical language, Seiji Marukawa took part in the International Colloquium on the French poet-philosopher Michel Deguy held in March 2011 and read a paper on his theory of Rhythm (and Figure), which was developed and to be published in a book in the near future. He also made an article on the the collection of poems by Paul Claudel entitled “Cent phrases pour l’éventail”, examined closely how his idea of Rhythm (related to that of Figure) can be detected in the creation of these brief poems extending over several seasons and trips (this article was submitted to an Academic Journal and now is awaiting the verdict). Throughout these articles is observed : if the notion of Rhythm normally associated with Temporality and Musicality is inseparable from the spatial image, it is nevertheless quite apart from the symmetry and is to be put together with the balance, the equilibrium, crucial notions to conceive Rhythm.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
総計	1,600,000	480,000	2,080,000

研究分野：ヨーロッパ文学

科研費の分科・細目：2903

キーワード：仏文学、美学

1. 研究開始当初の背景

いわゆる「リズム」の語源を巡っては、言語学者 E. バンヴェニストの著名な考察があり、それはリズムの語源、ギリシャ語の「リュトモス」が一般に考えられてきたように、必ずしも波のイメージから生じたわけではないことを証明する内容だった。しかし、波のようなイメージにリズムを結び

つける人間の比喩的な（形象化する）想像力を強調する詩人（M. ドゥギー）等もあり、リズムの構想は、ある時点から単なる詩的言語の韻律構造を超えて、美学一般、ないし人類学的な懸念（ルロワ-ゲーラン等）にも結びついてくる。この点を、詩学・美学的見地から、より新しい研究成果と、具体例の検証を含めながら発展させる必要があった。

## 2. 研究の目的

詩的言語のリズムの構想が、いかに慣習的な韻律の構想を超えて、形象 (figure) という視覚的でもある要素を媒介して成立しているか、フランスの近・現代詩と詩学、美学的な考察を対比させながら相関関係を考察、検証すること。時間的なリズムに、空間的な形象=像 (figure) を通じてイメージ化する過程がおそらくは必須であることを、詩学的な考察を通じ、多様な事象を通じて明らかにすること。

## 3. 研究の方法

研究方法は、詩と詩論の時代別の検討、及び関連分野の理論的な著作の検討の二つを軸とした。前者は主に、ヴァレリー、クローデルなど重要な近代詩人におけるリズムの構想と、戦後世代の詩人、詩学者におけるリズムの構想の検討を中心とした。後者については、より広い射程でリズムと形象の関わりを考察すべく、E. バンヴェニストからマルディネに至るまでの著作の検討を行なった。また、資料収集等のため、英仏両国に渡り、図書館や特殊な資料館等での調査を行なった。

## 4. 研究成果

漠然と音楽ならびに時間的要素に結びつけられるいわゆる「リズム」の概念が、いかに

空間的なイメージを伴っているか、そしていかに機械的な定期性と異なる儂い「均衡」の形態として詩的言語及び造形の世界で構想されてきたかを、いくつかの論文の中で具体例の検証とともに明らかにした。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (発表済み：計 2 件)

### 丸川誠司

「リズムと形を巡るノート」、「学術研究」第 60 号、早稲田大学、2012 年、pp. 353-371.

「リズムと形を巡るノート (2)」、「学術研究」第 60 号、早稲田大学、2013 年、pp. 371-390.

[学会発表] (計 1 件)

### Seiji Marukawa.

“Michel Deguy, penseur de rythme-figure”,  
COLLOQUE INTERNATIONAL MICHEL  
DEGUY (mars 2011, Bordeaux)

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

[www.fabula.org/actualites/colloque-international-michel-deguy\\_43178.php](http://www.fabula.org/actualites/colloque-international-michel-deguy_43178.php)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

(丸川誠司)

研究者番号：70339612

### (2) 研究分担者

(鈴木雅雄)

研究者番号：20251332

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：